

2024年6月29日 第17回へき地・地域医療学会

精神科診療応援における 精神科病院と総合病院の比較



田鎖 愛理 (たくさり えり)

岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座

<利益相反の開示>

- 本発表に関連して、開示すべき利益相反に該当する項目はありません。

背景

- 岩手県では医師不足が深刻で精神科医・精神保健指定医も例外ではなく、演者は義務年限終了後も県内各地で精神科診療応援を行っている。
- 精神病床のみの精神科病院と精神病床を有さない総合病院では異なる点が多く、時に戸惑うこともあった。

目的

- 精神科診療応援における精神科病院と総合病院の違いについて自験例をもとに検証し、地域精神医療に際した戸惑いを減らすための資料とする。

方法

- 演者が当講座に着任した2016年度以降の精神科診療応援の内容を病院機能の違いに着目して精査した。
- 倫理的配慮として、患者の個人情報特定されないよう配慮を行った。

精査対象の精神科診療応援

- **精神科病院**

- 病床：123床（全て精神病床）
- 標榜：5診療科
- 2016年度途中より、月1回程度の日当直

- **総合病院**

- 病床：434床（一般390床、緩和24床、結核20床）
- 標榜：25診療科
- 2023年度途中より、月1回の日勤

結果：精神科病院

- 病棟全体の高齢者は73.2%
- 周辺症状や身体合併症を有する認知症患者と統合失調症の長期入院患者が主
- 急変時対応は当直医に一任され、死亡退院の対応も時にあり
- 電子カルテは精神科対応中心の仕様で簡便

結果：総合病院

- 対応した患者のうち、高齢者は72.7%
- 急性期の身体合併症を有し精神疾患が疑われる患者に対し、精神科に限定した対応
- 身体合併症の対応は他科が行うが、身体合併症が重篤かつ複雑であるケースが多く、内服薬の吟味と今後を見据えたアプローチが肝要
- 電子カルテは複雑で要修練

考察

- 対応を要する患者は医療機関を問わず高齢者が主で、県内の著しい高齢化が背景にあると考えられた。
- 精神科病院では総合病院と比較して精神科医自身が身体合併症に一定程度対応する必要性が生じ、総合的な診療力が問われた。
- 電子カルテは病院によって仕様が全く異なり、総合病院の方が全科に対応するため精神科より複雑であった。

結語

- 地域精神医療では高齢者が主体であるが、医療機関の機能により対応の仕方が異なる。
- このため、それぞれの背景を理解することが円滑な診療応援に繋がることが示唆された。